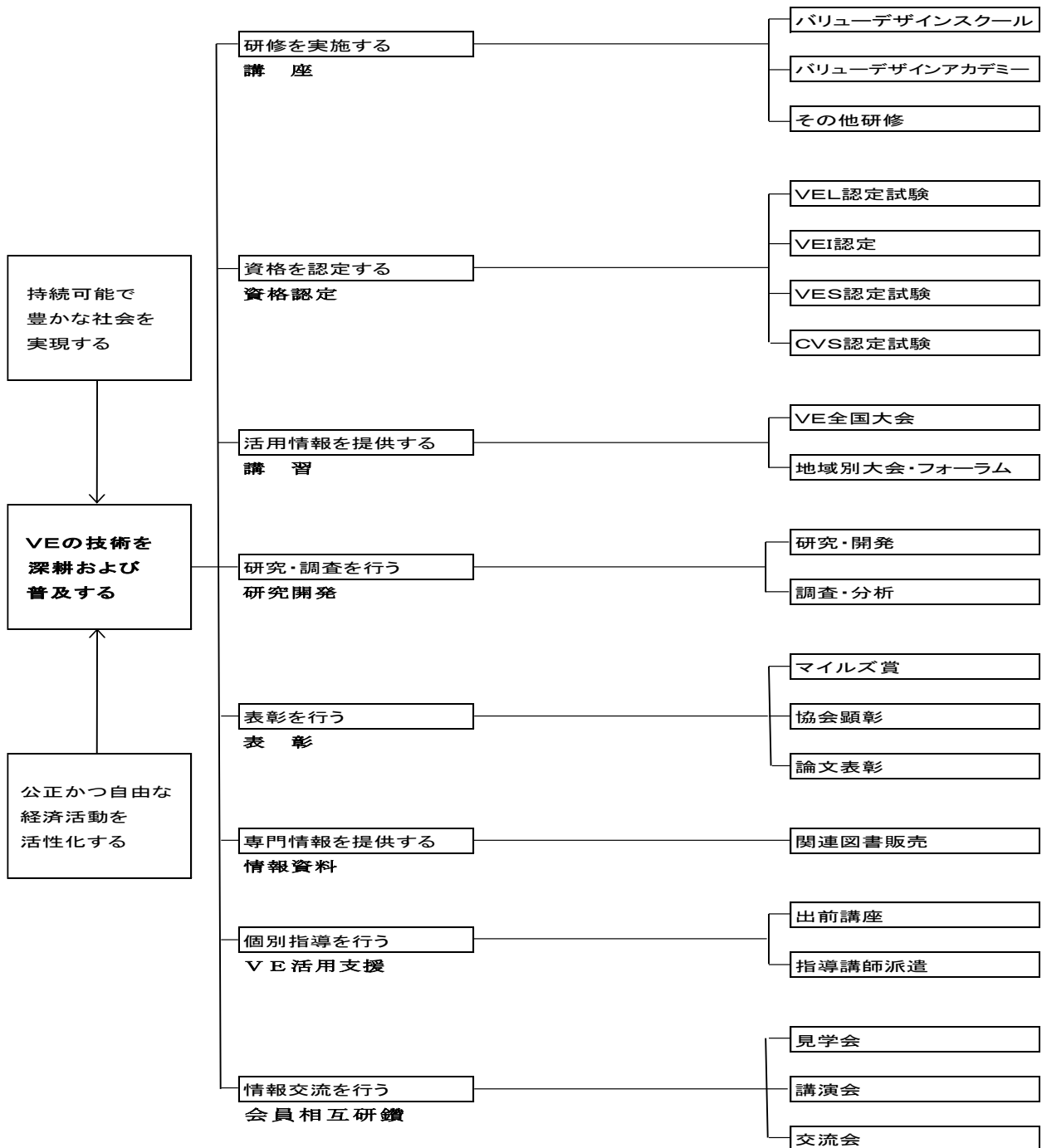


2024年度 事業計画書

(2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで)

2024年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) VE技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



1. 講座

ここでは、①次世代のVEリーダー育成を目的に、不特定多数の人々を対象としてVEに関する基礎知識を修得していただく講座、及び②実務でVEを積極活用できる専門家の育成を目的に、VEの基礎知識を有した人を対象としてVEの実践力を修得していただく講座等を行う「バリューデザインスクール」、VEを通じた社会インパクトの創出を促すことを目的に、様々な課題解決にVEを応用したい人々を対象として、VE+αの知識・スキルを修得していただく「バリューデザインアカデミー」等を開催する。

※以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）又はVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

1) バリューデザインスクールの開催

VEリーダー（VEL・）VES及びCVS認定試験の受験資格要件も満たせる講座や、VES及びCVS更新要件上のポイントにもなる講座等として、次の講座を主にオンライン（一部対面）で開催する。

講座名	開催日
3時間で学ぶVEの基本	6月13日、11月5日
1日で体験するVEワークショップ	6月21日、11月12日
ファシリテーション入門	7月10日
VEで活用するアイデア発想	7月11日
企画段階のVE	7月22日
VEの原点的思考（機能分析中心）	7月23日
VE活動で求められるファシリテーションの実践	8月2日・20日・28日
機能の整理法	9月4日
VEに活かす“数字力”養成	9月11日
開発設計のVE	9月26日～27日
VEを組織的に適用するためのマネジメント	10月3日
VEブラッシュアップ①基本編	10月4日
話し合いをデザインする技術	10月10日
「目からウロコ」の“見積業務” その重要性と価値向上への活かし方	10月11日
VEブラッシュアップ②短文記述編	10月17日
VEブラッシュアップ③論述編	10月25日
製品改善ワークショップ（対面）	10月28日～29日
製品改善ワークショップ	12月12日～13日

2) 「バリューデザインアカデミー」の開講

- (1) 新しい時代の公益法人の役割として「新たな事業展開にチャレンジして新たな社会的価値を創造し、成果として社会的インパクトを創出していくこと」が求められる中、VEを通じて「持続可能な価値 (Sustainable Value)」を創造できる人材を育成することによって社会的インパクトの創出を目指すべく、次世代バリュー・エンジニアの養成プラットフォームとして「バリューデザインアカデミー」を開講する。
- (2) 「バリューデザインアカデミー」のプログラムとスケジュールは次の通りとする。

プログラム名	実施日
開講式	4月10日
VE講座	5月15日、7月10日、9月20日、11月14日、1月09日
+α講座	4月10日、6月19日、8月(調整中)、10月2日、12月(調整中)、2月(調整中)、3月5日
オープンコンサルティング	4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、8月27日、9月24日、10月22日、11月26日、12月17日、1月21日、2月19日
特別講座：CVS受験対策講座	調整中
特別講座：論文対策講座	調整中
修了式	3月26日

3) その他研修会等の開催

(1) VEインストラクター養成講座

社内でVE基礎研修の講師を務めることができる人材を養成するため、VEL有資格者を対象にVEインストラクター養成講座を年度内に1回開催する。

(2) 通信講座の開講

① VEの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEL資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

② はじめての企画・開発メソッド ～ 0 Look / 1st Look VE ～

VEの基礎を学んだ人、VEL有資格者等を対象に、企画・開発業務にVEを活用する方法を学んでいただく講座を開講する。修了者にはバリュー・デザイナー3級の修了認定証を発行する。

(3) CVSによるVE技術者育成支援

日本国内のCVS有資格者で構成されている「CVSフォーラム」において、VE技術者の育成を支援するための活動やVEに関する実務的研究及び調査・分析を行う。

(4) 経営者フォーラムの開催

経営者層にVE及びその関連領域の情報を提供し、自組織でのVE活用を促進してもらえるようにするため、企業の経営者及び経営幹部や学識経験者、コンサルタント等の講演を主な内容とする講演会を、VES及びCVS更新要件上のポイントとなるものとして理事会と同じ日に3回開催する。

(5) 開発設計業務でのVE・原価企画等に関する講座のオンデマンド配信

VES及びCVSの更新要件上のポイントとなる講座として、「開発設計業務でのコストエンジニアリング講座」を、6月10日から6月28日までオンデマンド配信する。

(6) 公共機関でのVE技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国VE活動推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのVE技術者育成を支援する。

(7) 教育機関におけるVE導入促進と普及

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科主催の課題解決型長期企業実習「プラクティカム」に協力団体として登録。同研究科の院生に管理技術による改善指導の手法を学習する機会を上海VE協会の協力を得て9月～1月に提供。4～8名の参加枠とし、1月に成果発表会を開催予定。

※ 上記のほか、様々な講座を必要に応じて適宜開催する。

2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、社内でVE基礎研修の講師を務めるために必要な知識及びスキルを修得していると認められたVEL有資格者に授与される「VEインストラクター（VEI）」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行う。

1) 資格認定制度の整備・体系化

- (1) 米国VE協会から収集した“改定後のCVS資格認定制度運用”に関する情報に沿ってCVS認定試験実施要項及び再認定申請要領を改定し、新要件での認定を始める。
- (2) 前記(1)の改定内容について、解説動画を編集してホームページから発信し、公表する。
- (3) 前記(1)の制度改定によりCVSを国際資格と明確に位置づけ、VESをこれまでのCVSに相当する国内資格と位置づけたことを受け、希望するCVSにVESの終身登録を行う。
- (4) 米国VE協会から“改定後のCVS資格認定制度運用”に関する情報を引き続き収集し、追加対応が必要な場合はその方法を検討する。
- (5) 日本におけるCVS資格を国際資格と位置づけ、国際資格に相応しい制度運営をするための制度改定と、制度運営を今後さらに米国VE協会へと近づけるための検討・準備を引き続き行う。

2) 資格認定試験の実施

第56回 V E L 認定試験（前期）	4月18日 ～ 7月31日【C B T方式】
第57回 V E L 認定試験（後期）	9月 1日 ～ 2月28日【 ” ” 】
第27回 V E S 認定試験	12月 7日
第45回 C V S 認定試験	11月16日

3) V E I 資格の創設

V E L 有資格者を対象に、社内でV E 基礎研修の講師を務めるために必要な知識及びスキルを修得し、自信を持って教育指導ができる人材であることを認定するV E I 資格を創設し、要件となる講座を受講・修了した人に対して資格を付与する。

4) V E L 有資格者の継続教育

V E L 有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

5) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

V E L（A登録者）並びにV E S 及びC V S（終身登録者を除く）有資格者のV E 技術水準の維持・向上を主目的に、V E 活動事例やV E に関する研究成果等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌を編集し、電子版として年4回発行する。

6) 更新登録の実施

V E L、V E S、C V S 登録者の更新登録（V E L、V E S は終身登録を含む）を行う。

3. 講 習

ここでは、V E 活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、V E に興味がある人やV E L 等の有資格者、学生等を対象とした「バリュー・カンファレンス（V E 全国大会）」、V E 関西大会等の「地域V E 大会」、「V E フォーラム」を開催する。これらの大会及びフォーラムは、必要に応じてオンラインで開催することも検討する。

1) 「バリュー・カンファレンス2024／第57回V E 全国大会」の開催

会 期	11月上旬～11月下旬を予定
会 場	未定（対面とオンラインのハイブリッド型での開催を検討中）

2) 地域V E 大会の開催（西日本支部 関西地区、中四国・九州地区）

大会名	開催日	開催方法
第56回 V E 関西大会	2月	会場とオンラインの同時開催
第67回 V E 西日本大会	9月	オンライン開催

3) VEフォーラムのオンライン開催（西日本支部 関西地区）

	開催日	開催方法
VEスプリングフォーラム	5月24日	オンライン開催
VEサマーフォーラム	8月	未定

4. 研究開発

ここでは、日本とウズベキスタンの教育協力を通じたデジタル人財育成及び国際人財の流動性を促す教育プラットフォームの形成を目的に、学識経験者がシステムデザイン思考型メソッドの大学教育への適用とその影響の調査・研究を行う等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部・建設VE研究会等の「専門研究会」を設置する。

1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

- (1) “日本・ウズベキスタン共同でのIT教育システムの最適化の研究”を行う研究会を新たに設置。広く企業で活用される実践的なシステムデザイン思考型メソッドであるVEをウズベキスタンにおける大学教育プログラムに組み込むことで、効果的なデジタル人財育成プログラムを開発し、日本・ウズベキスタン両国内にとどまらない国際社会に求められる高度なデジタルスキル及び創造性を兼ね備えた人財育成に貢献することを目指す。
- (2) 米国VE協会が主催するSAVE Value Summit（6月2日～4日、対面開催）及びインドVE協会が主催するINVEST VE大会（11月15日・16日、対面開催）に参加し、海外諸国の研究動向についての情報を収集する。

2) 各支部での実務的研究の推進

(1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に7つの機能別部会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

① VE情報交流部会	② VE推進部会	③ マーケティング部会	④ R&D部会
⑤ ものづくり部会	⑥ 資材調達部会	⑦ 社会インフラ部会	

(2) 専門研究会での研究活動

東日本支部及び西日本支部（東海地区・関西地区）に専門研究会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

東日本支部	① VE初心者のためのスキルアップ研究会【VE寺子屋】
西日本支部（東海地区）	① 中部・建設VE研究会
西日本支部（関西地区）	① 経営革新を生み出す生き生きVE研究会 ② VEツール研究会 ③ サービス領域でのVE適用方法研究会 ④ 原価企画の問題解決研究会 ⑤ テアダウン研究会

5. 表彰

ここでは、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるVE活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、VE技術水準の向上とVE活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「VE実践論文」の審査及び表彰を行う。

1) 協会顕彰の実施

VEの研究開発や普及促進等で功績を挙げた個人や団体等に、顕彰規程にもとづいて次の各賞を「バリュー・カンファレンス2024／第57回VE全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（VE経営者賞、VE功労賞、VE国際功労賞、VE特別功績賞、VE学術功績賞、普及功労特別賞、VE活動優秀賞）

2) VE実践論文の審査・表彰

- (1) VE実践論文を「バリュー・カンファレンス2024／第57回VE全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文の審査を「審査・認定委員会」内に設置されている「論文審査部会」で行い、その結果入選となったものの表彰を同大会で行う。
- (2) VE実践論文は上記以外でも随時提出を受け付け、査読の結果採択となった論文は原則としてVE誌に掲載する。
- (3) VE実践論文でなく、学術的な研究論文の応募があった場合は、一般社団法人日本システムデザイン学会と連携し、査読・発表の機会を上記と別に設けることとする。

6. 情報資料

1) 研究成果の資料化

各支部での実務的研究の成果をV E 資料として纏め、公表する。

2) V E テキスト・教材・関連資料等の発行・販売

- (1) 「バリュー・カンファレンス2024／第57回V E 全国大会」V E 実践論文集・資料集、V E 普及のための図書等を発行する。
- (2) ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、V E L バッジなどV E 実施や推進のためのアイテムを販売する。

3) V E テキスト・関連資料等の翻訳・発行

- (1) 講座テキストやV E 資料等を英語、中国語等に翻訳し、発行する。
- (2) 本会が発行しているV E 資料、研究資料等の翻訳も進める。

4) V E 関連書籍・資料・教材等の販売

V E の学習及び研究、普及促進に資するため、V E 関連専門図書を仕入れて販売する。

5) V E 研究論文等のネット販売

協会Web Site内に開設したV E 論文検索・購入サイト「V E 論文navi」で電子化した過去のV E 研究論文及びV E 実践論文を販売する。

7. V E 活用支援

1) 日本国内における出前講座・オンライン講座の実施及び指導講師の派遣

企業・団体等からの要請に応じて出前講座・オンライン講座を実施、又は指導講師を派遣し、V E の個別指導、コンサルティング等を行う。

2) 海外でのV E 教育支援

- (1) 上海V E 協会が行う中国でのV E 研修、資格認定等を支援するとともに、中国及び海外でのV E 研修、プロジェクト指導等の担い手となる人材の募集や養成に注力する。
- (2) 上海V E 協会の会員企業や個人会員が本会主催のオンラインイベント（大会・講演会・研究会等）に参加し、V E への理解を深める場を提供するための環境を整備する。
- (3) 海外向けにV E 研修プログラム（V E 基礎講座・サービス系ソフトV E 講座）を標準コースとして開発するとともに、海外でのV E 資格取得を促進させる。
- (4) 企業・団体等からの要請に応じて出前講座・オンライン講座を実施、又は指導講師を派遣し、V E の個別指導、コンサルティング等を行う。

3) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定と再認定

- (1) 企業や団体が主催するVEワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がVES認定試験の受験要件であるVE学習経歴を満たせるようにする。
- (2) また、登録済みの認定VEワークショップ・セミナーについて、4年ごとに再認定を行う。

8. 会員相互研鑽

1) 見学会・講演会等の開催

各支部においてオンラインでの見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、VEに関する情報交流を行う。

9. 広報活動

1) メールマガジンによる情報発信

- (1) メールマガジン「VE情報メール」を毎月1回発行し、VEや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などPR活動にも積極的に利用する。
- (2) 「バリューデザインアカデミー」に関する情報を不定期でメール配信し、2025年度以降の参加を促す。

2) 協会Web Site等による情報発信

協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、VEや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、各種SNSと連携させることで、発信力の強化を図る。

3) インフラメンテナンス国民会議への参加

国や自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に参加し、情報を収集するとともにVE関連情報の発信を図る。

4) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合い、またPRに協力、参加費の割引を行う等して、VEの普及促進を図る。

5) アジア圏を中心とした海外向け情報発信の拡充

- (1) オンライン化により海外でのVE教育、実践指導、資格認定の可能性も広がったことから、協会Web Siteや情報・資料、動画セミナー等のコンテンツを英訳・中国語訳し、積極的に発信する。

- (2) 米国V E 協会のアジア地域担当マネジャーと協力して、アジア諸国のV E 関係者との連携を強化し、V E 普及促進の図るための協力体制を築く。

10. 会 議

1) 定時総会の開催

第14期 定時総会	6月13日
-----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

2) 理事会の開催

第45回	第46回	第47回	第48回
5月14日	6月13日	9月 3日	3月11日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

3) 「本部企画委員会」の開催

各支部の支部長、各委員会の委員長、事務局長で構成し、年度計画の調整や事業推進における意思疎通を図るための「本部企画委員会」を年度内に1回、対面又はオンラインで開催する。

以上